

## 金利の引き下げについて

金利決定のメカニズムは単純です。需要と供給の関係です。

先日、「現在リスケジュール中だが、金利の支払いが厳しいため、金利を引き下げたい。良い方法はないか？」とのご相談がありました。業績の良し悪しに関係なく、誰もが金利を引き下げの方法について興味があるのではないのでしょうか。

金利決定のメカニズムは単純です。ある企業に対して、貸したいと思う銀行が多ければ金利競争が発生して金利は低くなります。反対に貸したいと思う銀行が少なければ金利競争は発生しませんので金利は高止まりします。

また、銀行は融資先を財務内容によってランク付をしており、ランク毎に目安となる金利を設定しています。財務内容が良い企業は金利が安く、財務内容が悪い企業は金利が高くなるよう、銀行内のルールで事前に金利が決められていることを考えると、金利交渉の余地はあまりないことが分かります。

弊所が財務を代行している企業様の例ですが、2.5%の金利で7,000万円の手形割引を行っている銀行が、自ら、手形割引の代わりに使って欲しいとあって、1%弱の金利で長期融資を提案してきたことがあります。金額にして年間100万円以上の金利減です。

このようなことが起きる背景は、第一に業績が良くなったこと、それから複数行と融資取引を開始したことが挙げられます。まずは、業績が良くなければ、そもそも銀行は魅力を感じてくれません。次にライバルとなる銀行の存在です。1行取引では競争原理が働きませんので、複数行と融資取引を行い、お互いが切磋琢磨してもらえ環境を作り出すことで、こちらが働きかけることなく、先方が進んで低い金利を提示してくれるようになります。

では、現在リスケジュール中の企業が金利を引き下げることが可能でしょうか。お分かりのとおりほぼ不可能です。リスケジュールを受け入れている銀行は、これ以上融資をしたいと考えてはいません。むしろ、早く融資を回収したいと考えています。金利を下げる動機、必然性がないので、基本的には難しいと考えるのが自然です。

金利は財務内容に連動すると説明しましたが、「業績が悪化した際に利用するセーフティネットは金利が低いではないか。」と考えた方もいらっしゃると思います。同じ銀行が提案に来るため紛らわしいのですが、セーフティネットは国の政策であり、民間金融機関が営利目的で行っている融資とは根本が違います。

営利企業である民間金融機関が、救済目的で低い金利を提案することは、預金者や株主の手前、許されません。金利はあくまでも貸し手の条件です。貸し手の間で競争が起きなければ金利は下がりにませんので、まずは貸し手にとって魅力のある財務内容を目指しましょう。金融機関が評価する財務のポイントについて、個別にご相談をお受けしております。もちろん無料ですので、お気軽にお問合せください。

その他詳細については久保総合会計事務所にご相談ください。

TEL06-6930-6388

HPアドレス <http://kubokaikei.com/>